

# 平成23年度施策リポート 1 本コース①国内研修

## 世界最高水準の講師を迎える、現場での即戦力を育成

2012年1月19日から2月29日まで約6週間にわたり本コース国内研修が東京、広島等で行われました。本コースは、平和構築分野でキャリアを構築する強い意志を持つ日本人15名とアジア人14名を対象に、国際機関等を中心とする組織を通じて平和構築支援のために活動する人材を育成することを目的としています。

本コース国内研修では、平和構築の専門家として必要な実践的知識を研修員が得られるよう、紛争の分析やプロジェクトの策定・運用、関係者間調整等の専門的かつ実践的な講義を、平和構築分野において活躍している専門家によって実施し、更にはそれを実践で応用で

きるよう紛争事例の分析、ロール・プレイ等を取り込んだワークショップ等を盛り込んだプログラムとなりました。

本コース研修員は国内研修終了後、海外研修において国連ボランティアとして平和構築分野のフィールドで活動している国際機関等へ派遣され実際の業務に従事しますが、国内研修を通じ平和構築専門家への第1歩を踏み出した本年度研修員の平和構築分野での今後の活躍が大いに期待されます。



### HPCスタッフ

#### Report by

HPCコース・センター・  
人材データベース管理担当  
平野 尚也



#### 素晴らしい未来の ピースビルダーの ために

国内研修ロジ、ロスター管理、プログラムアソシエーツ(PA)向けニュースレター発行等、様々な業務に携わりました。こちらが支援するはずのPAが、時に私たちスタッフの仕事を応援してくれたりすると、さすが未来のピースビルダーだなと思いますね。

## 国内研修プログラム・講師紹介

### 開講式・オリエンテーション

篠田 英朗  
広島平和構築人材育成センター(HPC)理事・事務局長  
国立大学法人 広島大学 平和科学研究センター・  
大学院国際協力研究科 准教授

上杉 勇司  
広島平和構築人材育成センター(HPC)プログラム・オフィサー、  
国立大学法人 広島大学 大学院国際協力研究科 准教授

### チームビルディング・エクササイズ

上杉 勇司  
広島平和構築人材育成センター(HPC)プログラム・オフィサー、  
国立大学法人 広島大学 大学院国際協力研究科 准教授

### 国際機関による取り組み

杉浦 正俊  
外務省 総合外交政策局 国際平和協力室長

相原 泰章  
内閣府 国際平和協力本部事務局 専門官

天野 里香

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)駐日事務所 涉外担当官

ウェリアム・パリガ  
国際移住機関(IOM)駐日事務所 駐日代表

平林 国彦  
国連児童基金(UNICEF)東京事務所 代表

高須 直子  
国際連合開発計画(UNDP)駐日代表事務所  
プログラム・マネージメント・スペシャリスト

本田 容子  
世界食糧計画(WFP)駐日事務所 支援調整官

阿部 俊哉  
国際協力機構(JICA)経済基盤開発部 ジェンダー・平等、  
貧困削減推進室 副室長、兼 経済基盤開発部 平和構築・都市、  
地域開発グループ 平和構築・都市・地域開発第二課 企画役

### 平和構築の概論

篠田 英朗  
広島平和構築人材育成センター(HPC)理事・事務局長  
国立大学法人 広島大学 平和科学研究センター・  
大学院国際協力研究科 准教授

### 国連と平和構築

長谷川 祐弘  
法政大学教授 東ティモール大統領特別顧問、  
元国連事務総長特別代表(東ティモール担当)

### 自衛隊による国際平和協力活動

陸上自衛隊中央即応集団 国際活動教育隊  
秋葉 瑞穂(1等陸佐)  
陸上自衛隊中央即応集団国際活動教育隊 隊長  
その他4名の講師の方々

1月19日開講式

### 第1週 アナリシス

様々な紛争分析の手法の取得  
紛争後社会への関与方法の分析  
具体的な事例の分析エクササイズ



2月6日

### 第2週 プランニング

プロジェクト立案の枠組み  
統合ミッション等の立案過程  
人間の安全保障基金エクササイズ



2月13日

### 第3週 コーディネーション

平和構築の現場における多様なアクター  
人道援助における調整エクササイズ  
平和構築の現場における安全管理



2月20日

### 第4週 プロジェクト・マネジメント

開発援助の最新動向  
事業管理の考え方  
国連平和構築基金エクササイズ



2月28日

### 第5週 スキルアップ

キャリア構築ワークショップ  
(文書作成・面接スキルなど)



平成23年度施策リポート

本コース①国内研修

# 平成23年度施策リポート 2 本コース②国内研修

## 現場を意識してより実践的な内容を展開

私は、本事業の一番重要な要素は、研修員を選ぶところであると思っています。今年も多彩で豊富な経験、知識、問題意識を持った研修員に、事業に入ってきてもらいました。UNVは、即戦力の人材を求めています。海外実務研修は、実際に正規の国連システムに入って働いてもらうので、働く意欲のある人材を、世界各地に派遣していくという性格が強いのは確かです。かたや私は、これは人材育成のプログラムであると考えるので、欠けている部分があってもそれを補い、優れた点はどんどん伸ばしていっていただけるような可能性を秘めた方を選ぶようにしています。その基準は三つ。平和構築のビジョンをはっきり

り持った人材であること、パッションを持った人材であること、そしてつらいことがあっても続けられるコミットメントのしっかりとした人材であることです。今年度も、これらの資質を持った人材に数多く入ってきてくれました。

こうした観点から、今年度の本コースの研修も、実践的な内容に富んだものとなりました。HPCが目指しているのは、理論と経験、知識と技能、思考と作業、個人と集団の要素をおりませて、各人がそれぞれの課題を持って取り組める研修を提供することです。

上杉 勇司  
HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授



HPC講師



上杉 勇司  
広島平和構築人材育成センター(HPC)  
プログラム・オフィサー  
国立大学法人 広島大学  
大学院国際協力研究科 准教授



### コーディネーションの面白さ・難しさを体験

今年も昨年に引き続き、「コーディネーション」を学ぶ研修第3週目に国連PKO活動の概要や現場の実情、そして、PKO活動と平和構築との関係等について講義を担当させて頂きました。今年はPKO活動参加を現時点で希望している研修員が少なかったにも関わらず、問題意識の高い議論が行われました。又、研修員に実践的なスキル習得をして貰う一環として、これから現場で直面するであろうコーディネーションの事例をいくつか実践してもらいました。特に、人道支援を行うにあたってPKOや他機関と連携の取り方などを経験したことによって、研修生は平和構築の主体である現地政府との調整、現地の人々に負担を掛けないニーズ聴取の仕方等、様々な観点からコーディネーションの面白さや難しさを振り返えられる良い機会になったと思います。「コーディネーション」の研修は、多様なアクターについて学びながら、交渉力を含めたコミュニケーション能力を高める過

りあります。そういった意味で、今後多文化・多国籍の同僚達と仕事をしていかなくてはいけない研修員にとって、アジア人と日本人が切磋琢磨し、時には戸惑いながらも絆を深め一緒に過ごした6週間は、各々のコミュニケーション力を磨く上で大変貴重な時間でもあったと思います。実際の講義に加えて、昨年独立したばかりで平和構築の現場として注目される南スーダンに関しては、私自身のスーダンでの経験、そしてこれまでのキャリア構築に関しても多くの研修員とお話をさせて頂きました。講師として参加しているにも関わらず、今年も研修員の好奇心と熱意からエネルギーを貰いました。研修員には本コース後、ここで培ったスキルを基に、専門性を高めつつ、平和構築の分野で自分にあった携わり方を模索し続けて行ってほしいと願っています。



小野 京子  
国際平和維持活動局(DPKO)政策・評価・訓練部ベストプラクティスセレクション政策担当官



### 共に学び、刺激し合った仲間たちは貴重な財産に！

元々、将来のキャリアとして世界の平和構築に貢献するグローバルヘルスに関わる仕事をていきたいという希望があり、世界保健機関(WHO)ジュネーブ本部でインターンをしておりましたが、現場経験の不足、また、健康問題の背景となっている紛争や貧困等の社会的問題の知識と理解の不足を感じていました。これらの問題の対症療法的な解決策ではなく、根本的に治療・解決していくためのヒントを得たいと思っていたところ、本事業の存在を知り、参加しました。

研修で学んだ事項は、まさに現場の問題解決に向けた実践的な内容でした。実際の研修員の現場派遣を想定し、目の前で起こっている問題の根幹を多面的に分析し、解決のためのプロジェクトを立案し、予算案を考え、周囲の人々を巻き込みながらいかに効果的に実行していくかを、日本だけでなくアジアから集まっている研修員達とともに英語で議論し、様々なプロジェクトとして創り

上げていきました。医療従事者としては、全く知らないかった事柄も数多くありましたが、政治、経済、開発、法律、メディア、教育、工学など多彩なバックグラウンドを持ち、国連、政府機関、NGO、民間企業等での就労経験を持つ研修員達との交流を通じて、自分の視野を大きく広げることができ、お互いに刺激し合いながら、とても充実した時間を過ごすことができたと感じています。

今後は、研修で学んだことを基礎に、プライマリーヘルスケアの分野を通じて、現場の人達の平和と幸福に貢献できるプロジェクトを自分の力で立案し、実行していきたいと考えています。平和構築の現場では、定まった答えのない難問に向き合っていかなければなりませんが、これらの難問と一緒に立ち向かっていくことができる仲間が世界中にできたことも、研修に参加することで得られる大きな利点のひとつだと実感しています。



樺野 亘  
平成23年度 研修員



# 平成23年度施策リポート 3 本コース③海外実務研修



## 国連ボランティアとして積む、平和構築現場での実務経験

本コースの日本人研修員は、国内研修後、国連ボランティア計画(UNV)を通じて国連機関を中心とした世界各地の平和構築現場へと派遣され、最大12ヶ月間の海外実務研修に参加します。派遣先は、UNVにより、研修員の希望と適性、受け入れ機関のニーズを踏まえ検討された上で、外務省が決定します。

平和構築を担うプロとなるためには実務経験が欠かせません。海外実務研修では、単に研修を受けるのではなく、国連ボランティアとして国連機関での実務に携わることになります。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実地経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。

これまでの事業では、国連開発計画(UNDP)、国連児童基金(UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国際移住機関(IOM)といった国連機関、国際機関などが受け入れ先となりました。派遣先の地域も、アフリカ、中央アジア、東南アジアなど非常に多様です。

こうした海外実務研修の実施を通して、即戦力となる人材を育て、世界で活躍できるプロを送りだすとともに、平和構築の分野における研修員のキャリア構築の第一歩とすることを目指しています。平成23年度の研修員は国内研修終了後、順次海外実務研修へ出発する予定です。

## 海外実務研修先と海外派遣先の例

(平成19年度～22年度)※2011年12月7日現在



派遣機関	派遣国(地域)	派遣機関	派遣国(地域)
国連開発計画(UNDP)	コソボ・スリランカ・東ティモール・ラオス・シエラレオネ・ネパール・スーダン・モンテネグロ・カンボジア・ハイチ・ウズベキスタン・キプロス・レバノン・東エルサレム	世界保健機関(WHO)	インドネシア
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	スーダン・ネパール・レバノン・エチオピア・コソボ・タンザニア・ヨルダン・ケニア・南スudan	国連地雷対策支援信託基金(UNMAS)	レバノン
国連児童基金(UNICEF)	カンボジア・コソボ・東ティモール・ラオス・ウガンダ・アゼルバイジャン・スリランカ・ネパール・ヨルダン	国連薬物犯罪事務所(UNODC)	ウズベキスタン
国連教育科学文化機関(UNESCO)	タイ	国連基金・計画事務所(OUNF&P)	カーボベルデ
国連食糧農業機関(FAO)	タイ	事務総長特別副代表(DSRSG/RC Office)	ギニアビサウ
国連世界食糧計画(WFP)	ケニア・ラオス・スリランカ・ネパール・フィリピン	国連PKOミッション(本事業経費外)	リベリア・スーダン・東ティモール・コンゴ(民)
		国際移住機関(IOM)	インドネシア・スリランカ・ミャンマー・南スudan
		国際民主化選挙支援機構(International IDEA)	南アフリカ
		日本紛争予防センター	カンボジア
		日本地雷処理を支援する会	カンボジア・ラオス

\*平成21年度シニア専門家向けコースの研修先も含んでいます。※NGOへの派遣は平成19年度、20年度のアジア人研修員に対してのみ行われました。

## 本コース海外実務研修先の例

\*平成22年度の派遣先の例です。(2011年12月時点)

■ 受入先 ■ 派遣地	■ 肩書 主な業務の例
■ 国連開発計画(UNDP) ■ プノンペン:カンボジア	■ 性的暴力担当スペシャリスト 性差に基づく暴力行為対策の企画策定と啓蒙活動
■ 国連開発計画(UNDP) ■ プノンペン:カンボジア	■ 違法森林取引・コミュニティ紛争担当プログラム・スペシャリスト 違法森林取引に関わる調査及び「森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出とその抑制方策計画」(UNREDD)プログラムのマネジメント
■ 世界保健機関(WHO) ■ ジャカルタ:インドネシア	■ ヘルスケア・ファイナンス・オフィサー 出資者との行動計画の策定及びインドネシア政府への技術支援
■ 国連世界食糧計画(WFP) ■ ダルルデュラ:ネパール	■ プログラム・オフィサー 食糧保障向上のための生計手段の確保及びWFPプロジェクトの監督補佐
■ 国連児童基金(UNICEF) ■ コロンボ・スリランカ	■ 児童保護担当オフィサー 児童保護に関する事項の調査報告及び出資者との会合の調整
■ 国連児童基金(UNICEF) ■ ディリ:東ティモール	■ 児童保護担当オフィサー 児童虐待防止、子どもの権利保護のためのイベント、活動の実施
■ 国連開発計画(UNDP) ■ タシケント:ウズベキスタン	■ 監視・評価担当オフィサー UNDPウズベキスタンにおける監視・評価システムの設置指導及び概念、方針、手法面での補助
■ 国連開発計画(UNDP) ■ ブリュッティナ:コソボ	■ プログラム・アナリスト 監視・評価の投入及び統治プログラム、事業の補助
■ 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) ■ ブリュッティナ:コソボ	■ アソシエイト・プロテクション・オフィサー 強制帰還民の監視、帰還傾向の分析及びコソボ政府の能力向上支援
■ 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) ■ ダダープ:ケニア	■ 地域間青年交流担当オフィサー 戦略の開発、実行及び地域開発を促進する青年グループの支援
■ 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) ■ カクマ:ケニア	■ 平和構築オフィサー 難民および受け入れコミュニティの能力向上及び関係出資者との協議、コーチング
■ 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) ■ ジュバ:南スudan	■ アソシエイト・プログラム・オフィサー 移行期の避難所提供、クイック・インパクト・プロジェクト、生活支援による国内避難帰還者と受け入れコミュニティ間の共生促進
■ 国際移住機関(IOM) ■ ジュバ:南スudan	■ 出入国・国境管理担当オフィサー 出入国、国境管理プログラム実施の補佐
■ 国連開発計画(UNDP) ■ ポートオーブリンス(ポルトープランス):ハイチ	■ 暴力削減地域アドバイザー 国内避難者とそのコミュニティの不安定性と安全状況の調査分析及びプロジェクトの計画補助

# 平成23年度施策リポート 4 平和構築基礎セミナー



## 多彩な学びのスタイルを加え、平和構築への基礎的理...

2011年12月12日から16日まで5日間にわたり、国連大学ビル(東京都内)において平和構築基礎セミナーを開催しました。このセミナーは、応募条件に実務経験や年齢に関連する制限がなく5日間という比較的の短期間で修了できる間口の広いセミナーであり、開講以来3年目となる今年度は大学/大学院、一般企業、法律、医療、NGO、開発コンサルタント、省庁など幅広い分野から30名が集まりました。基礎セミナーでは、「平和構築とは何か」という基礎的なものから「紛争地域の活動とは何か」といった実践的なものまで5つのテーマに沿って、平和構築分野にかかる専門家と実務家による講義を実施し、更

には、「紛争解決ツール」の習得、難民支援に関するロール・プレイ演習、平和構築活動の案件立案といったワークショップも実施しました。このセミナーでは受講者に対し、平和構築に関する基礎知識の習得のみならず、実務で必要とされる知識や経験を少しでも体感できるようプログラムを構成しました。また受講者たちは、5日間のセミナーを通じ、様々な分野の受講者や講師たちとネットワークを築きました。

### ●講師紹介

内容	講師
「平和構築とは何か」	篠田 英朗 (HPC理事・事務局長、NPO法人ピースビルダーズ理事、広島大学准教授)
「紛争はなぜ起こるのか」	上杉 勇司 (HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授) 武内 進一 (JICA研究所上席研究員)
「国際社会の紛争への対応」	稻田 十一 (専修大学教授) 米川 正子 (宇都宮大学特任准教授)
「紛争地域の活動とは何か」	長 有紀枝 (立教大学大学院教授、難民を助ける会理事長) 伊勢崎賢治 (広島平和構築人材育成センター[HPC]代表理事、NPO法人ピースビルダーズ 代表理事、東京外国语大学[TUFS]大学院総合国際学研究院[国際社会部門・国際研究系]教授)
「日本は平和構築に何ができるか」	杉浦 正俊 (外務省総合外交政策局国際平和協力室長) 相原 泰章 (内閣府国際平和協力本部事務局専門官) 阿部 俊哉 (国際協力機構[JICA]経済基盤開発部 ジェンダー・平等・貧困削減推進室副室長 兼 経済基盤開発部 平和構築・都市・地域開発グループ 平和構築・都市・地域開発第二課 企画役)

### HPCスタッフ

#### Report by

HPC研修員管理支援・総務担当  
今村 沙絵



より多くの人に知られる事業になりました

応募者からの問い合わせ対応や選考プロセスを主として担当しました。募集告知を行う前から応募方法の問い合わせを受けたり、過去の修了生からの紹介があるなど、本事業が5年目に突入し更に多くの方に認知されるようになったことを感じられました。

Pick Up  
講師  
2011

### 平和構築(国際協力)の方法は一つではありません。

昨年に引き続き、「紛争地域の活動とは何か: 平和構築の実務～緊急人道支援の現場から」というテーマで人道支援の観点から講義をさせていただきました。受講者の皆さんには毎年カラーが違うと思います。今年度に関しては、様々な分野で活躍する社会人の方が多く参加されていましたので、仕事をしながら、国際協力に思いを秘めていらっしゃる方が全体的に増えてきたように感じました。講義も最初から最後まで熱心に聴いていただけてとてもよかったです。また、質疑応答や講義後に熱心な質問をいただき、その問題意識もとても高いと感じました。

受講者の皆さんにお伝えしたいことは講義の中でもお話ししましたが、国際協力の方法は一つではないということです。フィールドに出て活動をすることは、確かに注目を浴びやすい部分ではあります。それが全てではありません。皆さ

んには今現在のそれぞれの分野で息長く続けてもらえばよいのかなと思います。国に税金を納めているというだけであっても大きな国際協力の一つですし、国連機関などの最前線で活躍することも国際協力です。ただここでお伝えしたいことはたとえこの先自分の希望する分野に進めなかっただとしても、国際協力に関わっているという意識を持ち続けていただきたいということです。

私の考える平和構築とは「みんなが幸せになるためにできるお手伝い」です。みんな同じようにこの世に生まれてきたというのに、生まれた場所によって環境がここまで違うのは理解しがたいものです。生まれながらにできてしまった差を縮めるためのプロセスが平和構築といえるのではないかでしょうか。

長 有紀枝

立教大学大学院教授、難民を助ける会理事長



### 講師のみなさんに感銘を受け、自分が描いている目標を強く確信！

From  
受講者  
2011

大川 世令奈

平成23年度 受講者



私の夢は国際協力師になることです。2001年同時多発テロをテレビで見て「争いのない世界を作りたい」という思いが生まれ、平和構築の分野で活動することを目指すきっかけとなりました。しかし、これまで平和構築、国際協力とはいっていいどういうことをいうのか、分かりませんでした。物に溢れた日本のような先進国に生まれ育つとこの分野の職業や活動は美化されているように思います。「世界を変えたい」という志は人一倍持っているつもりですが、何一つ現場で役立つスキルを持っていないことに焦り、苛立ちを感じていました。何か一步を踏み出したいと悶々と思っていたときこの基礎セミナーに巡り合いました。

実際に基礎セミナーに参加して、搖るがぬ志を持ち、プロとして現場に立ち、国家やNGOの舵取りに関わり、または研究者としてより深く争いや歴史を理解しようとする講師の方々のお話を聞くことがで

きて、とても贅沢な時間を過ごすことができました。これほど深く、多岐かつ専門的な観点から平和構築を学び、考えたのは初めてでした。講師の方々は理論や綺麗事ではなく見た、感じた、生の思いをそのまま包み隠すことなくぶつけてくださいました。何より同じ日本人の方たちが世界を股にかけ、世界を変えようと奮闘する姿に感銘を受け、衝撃的でした。

綺麗事や感情論で解決はできないほど、世界が抱える問題は複雑で、また平和構築の分野で活動することは、情や憐れみでうまくいくほど簡単ではないと思います。しかし、本セミナーを通じて、「それでも私は一日でも早く現場へ向かい、少しでも世界を変えたい。」という思いはより強く、確固たるものになりました。このような素晴らしい機会を与えてくださったHPCの皆様へ感謝すると共に、これからもこの5日間を胸に、自分の夢への道を切り開くべく精進していきたいと考えています。





## 一年を通して平和構築分野に寄与する事業を展開

**2011年**

- 6月16日 平成23年度外務省委託「平和構築人材育成事業」立ち上げ
- 7月21日 平和構築基礎セミナー受講者募集開始
- 21日 本コース日本人研修員募集開始
- 22日 本コース アジア人研修員募集開始
- 10月1日、2日 東京、日比谷公園にて開催された「グローバルフェスタ Japan2011」に本事業説明ブースを出展
- 10月8日 大阪、関西外国语大学にて本事業説明会及びキャリア構築セミナー「平和構築分野で求められる人材」(HPC、関西外国语大学共催)開催
- 10月27日 平和構築人材育成事業のポスター
- 11月2日 栃木県、NPO法人昭和ふるさと村にて開催された「国際協力人材育成セミナー in 東京」に本事業説明ブースを出展
- 17日 京都、同志社大学にて開催された「人間の安全保障学会創立大会」に本事業説明ブースを出展
- 28日 東京、津田塾大学にて開催された「国際機関・国際協力分野志望者研修プログラムセミナー」にスタッフ派遣
- 6日 東京、上智大学にて開催された「国際機関職員セミナー」にスタッフ派遣
- 29日 東京、JICA地球ひろばにて本事業説明会及びキャリア構築セミナー「南スーダン、スーダンから見た平和構築のキャリア形成」(HPC、独立行政法人 国際協力機構 [JICA]共催)開催
- 31日 本コース日本人研修員募集締切

**2012年**

- 10月4日 東京、国連大学本部ビルにて本事業説明会及びキャリア構築セミナー「国連における平和構築のキャリア形成」(HPC、国連ボランティア計画[UNV]、国連広報センター[UNIC]共催)開催
- 11月1日、2日 静岡、駒門駐屯地にて開催された「平成23年度国際平和協力セミナー」にスタッフ派遣
- 14日～18日 アメリカ・ペンシルベニア州カラーライで開催された「International Association of Peacekeeping Training Centers (IAPTC) 年次会合」に、HPCスタッフが参加
- 21日、22日 本コース日本人研修員面接試験実施
- 30日 本コース日本人研修員合格者説明会実施
- 12月12日～16日 国連大学本部ビルにて平和構築基礎セミナー (HPC、国連大学共催)実施
- 1月19日 国連大学本部ビルにて本コース国内研修開始
- 1月30日～2月3日 広島での研修開始。第1週「アナリシス」
- 2月6日～10日 第2週「プランニング」
- 2月13日～17日 第3週「コーディネーション」
- 2月20日～24日 第4週「プロジェクト・マネジメント」
- 2月28日、29日 第5週「スキルアップ」
- 27日 東京、JICA地球ひろばにて、「平和構築人材育成事業」5周年シンポジウム、「平和構築のキャリア構築～外務省委託「平和構築人材育成事業」5周年にあたって」開催(独立行政法人 国際協力機構[JICA]後援)
- 29日 本コース国内研修終了
- 3月以降、順次、海外実務研修に出発

**2011 REPORT**

**2012 REPORT**

## 平和構築のキャリア構築～外務省委託「平和構築人材育成事業」5周年にあたって

2012年2月27日に東京のJICA地球ひろばにて、公開シンポジウムを開催しました。本事業(2年間のパイロット事業を含む)は、本年度で5周年という節目を迎えました。そこで、改めて本事業の大きな目的である平和構築分野におけるキャリア構築のあり方について語り合ってもらいました。今後、平和構築の分野において活躍を目指す人々のキャリアプランを考えるうえで、大きな指針となる題材が提供されました。

基調講演として国連平和構築支援担当事務次長補／平和構築支援事務局長のジュディ・チェン=ホプキンス氏に国連の平和構築の取り組

みについて講演いただき、その後、国連本部や現地事務所で働く日本人職員、本事業の研修員及び修了生、外務省関係者やUNV職員の方々に、平和構築分野におけるキャリア構築のあり方について語り合ってもらいました。今後、平和構築の分野において活躍を目指す人々のキャリアプランを考えるうえで、大きな指針となる題材が提供されました。

また、本事業が築いた5年間の足跡を紹介する事業紹介用ビデオや企画展示が催され、更には、研修員と一般参加者とのコミュニケーションが図されました。



### HPCスタッフ

#### Report by

HPC事業全体調整・研修・行事担当  
出水 幸司



#### 伝えられるプロの知識、そして情熱

研修における講義ならびにワークショップの準備に携わるスタッフとして講師/ファシリテーターとやり取りをする多くの機会を得ましたが、彼/彼女を知れば知るほど、講師陣は、平和構築分野における研究者、実務家であるだけでなく、この分野に情熱を捧げる平和構築専門家であり、彼/彼女が伝えるカリキュラムは他では得難いものだと思いました。

**平和構築のキャリア構築～外務省委託  
平和構築人材育成事業5周年にあたって**



**PBSOがHPCと築いた友好関係と協力は、  
他に類のない機会を提供しています。**

**ジュディ・チェン=ホプキンス**  
国連平和構築支援担当事務次長補／平和構築支援事務局長

「平和構築人材育成事業」5周年おめでとうございます。国連平和構築支援事務局(United Nations Peacebuilding Support Office[PBSO])は本事業が開始された2007年より毎年、PBSOのスタッフを本コースのファシリテーターとして派遣し、事業に貢献してきました。

本事業の節目を迎えた本年度に開催されたシンポジウム「平和構築のキャリア構築～外務省委託「平和構築人材育成事業」5周年にあたって」において、私は基調講演者として招待され、「国連と平和構築」と題した講演を行いました。その中で、私は国連平和構築アーキテクチャー(the UN Peacebuilding Architecture[PBA])が、平和構築活動に関わる他の国連システムと共にどのように体系的に機能しているかを紹介しました。具体的にPBAは、平和構築委員会(Peacebuilding Commission[PBC])、平和構築基金(Peacebuilding Fund[PBF])と平和構築支援事務局(PBSO)の3つの柱か

ら構成されています。PBCは、紛争から脱しつつある国の平和への取り組みを支援する政府間諮問機関であり、アドボカシーと助言、資源の投入、関連組織の連携の促進という3つのユニークな役割を担っています。PBFの役割は、紛争後平和を目指す中の紛争の再発防止、及び平和を定着させるための政府や国家／地方組織の能力強化に直接寄与する初期平和構築活動を資金的に支援することです。

最後に、PBSOはPBCを支援し、PBFの管理をしています。また、平和構築に取り組む国連システムを調整する国連事務総長の活動もサポートしています。この点でPBSOは、知識管理、研究、また諸活動の連携を促進することによってPBAをサポートする重要な役割を持っています。

私は基調講演を通じて、PBAが今日では世界的にどれだけ平和構築において有用な組織であるか認知されていて、それが創設者たちが持っていた当初の

ビジョンにどのように応えてきているのかを説明しました。

平和構築活動における困難の一つは、経験と能力を持った人材を迅速に投入・派遣するPBAの限られた能力にも見出されます。PBSOがHPCと築いた友好関係と協力は、平和構築における技能と能力の開発において連携し平和構築活動の状況を改善する上で、他に類のない機会を提供しています。



### ●スケジュール

時 間	内 容
12:00～	開場、企画展・事業紹介ビデオ上映
13:00～13:20	開会の挨拶 ・中野 謙(外務大臣政務官) ・UNVからのメッセージ／長瀬 慎治(UNV 駐在調整官) ・篠田 英朗(HPC事務局長)

### 第 1 部

13:20～14:00	基調講演 ・「国連と平和構築」 ジュディ・チェン=ホプキンス(国連平和構築支援担当事務次長補／平和構築支援事務局長)
14:00～14:40	パネリストによるコメント ・パトリス・チオタ・玉内 みちる・中村 俊裕 ・宮村 浩子・関 薫子
14:40～15:00	休憩(企画展・事業紹介ビデオ上映)

### 第 2 部

15:00～15:45	「事業修了生の声」 ・「NGO、国際機関、政府機関をへて、国連へ」荊尾 遥 ・「民間会社から国連への転職」福島 葉子 ・「平和構築におけるビジョンの大切さ」酒井 倫得
15:45～16:00	「事業研修員の声」 ・「海外実務研修派遣中の平成22年度事業研修員からのメッセージ」HPCスタッフ ・「国内研修中の平成23年度事業研修員からの報告」中原 隆伸(平成23年度事業研修員)、小早川 鈴加(平成23年度事業研修員)
16:00～16:30	「パネルディスカッション・質疑応答」
16:30～	交流会(ブースごとに分かれて会場で研修員らが来場者の方々と質疑応答)

### ●参加ゲスト

	ジュディ・チェン=ホプキンス 国連平和構築支援担当事務次長補／平和構築支援事務局長
	パトリス・チオタ 国連平和構築支援事務局(PBSO)シニア・プログラム・アドバイザー
	玉内 みちる 国連児童基金(UNICEF)本部人事部外部人材登用担当官
	中村 俊裕 NPO法人コベルニク共同創設者 CEO、元国連開発グループ(UNDG)国連開発事業調整室 政策専門官
	宮村 浩子 国連政務局 欧州局 西ヨーロッパ・東地中海チーム チームリーダー
	関 薫子 国連事務局人道問題調整事務所(OCHA)政策担当官
	荊尾 遥 平成19年度事業研修員、現 在オランダ日本大使館 化学兵器禁止機関専門調査員
	福島 葉子 平成20年度事業研修員、現 WFPローマ 調達担当オフィサー
	酒井 倫得 平成21年度事業研修員、現 UNDPキプロス 平和構築オフィサー